

我が家にランちゃんがやって来た



涌井 謙一（無名会）

我が家にランちゃん（雌のポメラニン 2歳3ヵ月）がやって来て2年が経ちました。

なにも某消費者金融のテレビコマーシャルに感動してランちゃんと暮らすようになったわけではありません。

きっかけは、6年前に遡ります。妻がとある病気をもりました。なんとかこれをクリアできましたので、その後は、種々の本を読み、いわゆる民間療法なるものも参照して、肉は食べない方が良く、乳製品は採らない方が良く、等々やったんですが、3年前に病の再訪を受けました。これも運良くクリアできた後、結局この3年間の神経質な「努力」はなんだったんだ、と考えまして、だれでもいずれは三途の川を渡るんだから、これからは、美味しいと思うものを食べて、よく笑って、よく寝て暮らすようにしましょう、ということにしたのです。

ところが、美味しいと思うものを食べて、よく寝るといのは何とかなるんですが、「よく笑って」というのがなんとなりません。何しろ私、自慢じゃありませんが、人を笑わせる話ができるようなキャラクターではないのです。また、40年以上もかけて培った、この笑いの無いキャラクターを今更変更するわけにもまいりません。一方、妻も娘も、こんな夫、父に付き合っているの、似たようなものです。

これじゃ「よく笑う」生活は不可能です。笑いによるキラー細胞の消滅など望むべくもありません。どうすりゃいいの？

そんなときに、妻と娘が「ペットを飼いたい！」と言い出したのです。娘の友人（母親同士も友人）の家が新居を購入し、あわせてペットと住むようになったのに刺激されたようです。

「そりゃいいじゃん、『ヒーリング』、『癒し効果』つ

ていうからね」と、ペットを飼うことにしました。

ここでまず問題になったのは、住居です。なにしろ、ペット居住可のところに引っ越さなければなりません。年金生活になったらサッサと故郷の山の中に帰ろうと考えていたので、賃貸住まいで、ペットが飼育できるような環境には住んでいなかったのです。更に、病を得て以降の民間療法も含めた種々の対処に資金を可能な限り投入してきたので、先立つものがありません。

しかし、「だれでもいずれは三途の川を渡るんだから」って考えれば怖いものは無いですから、所長に退職金の前借も含めて借金をお願いし、銀行からも借りてローンレンジャーとなり、無事、ペット居住可の住居を確保しました。

さあ、次は、ペットとして猫を飼うか、犬を飼うか決める番だと夫（父）が考えていましたところ（私は幼少のみぎり、猫を飼っていたことがありまして猫を飼いたかったのです）いつものように休日出勤中の夫（父）のところいきなり電話が入り、「今、ペットショップに居るんだけど、可愛いポメラニアンが居るからこの子に決めたいね！」です。「オイ、オイ、俺の猫はどうなるんだ」と言い始めないうちに携帯電話は切られました。

次の週末、ペットショップに連れて行かれてご対面です。生まれてまだ3週間ほどですから、あまりに小さくて、産院で娘を始めて抱いたときを思い出しながら、おそろおそろ抱き上げました（この時はまだ猫に未練があった）。

「じゃ、名前はどうするんだ？」

「もう、決まってるよ、ランちゃん！」

「なに、それ、もう決まってるって、父ちゃんの意見はないのか？」

「いいじゃん、お父さんの好きなコナンくんに出てくる蘭ちゃんなんだから～」

これで名前も決まりました。

「コナンくん」は「名探偵コナン」(漫画・テレビアニメ)のことです。私は漫画の単行本を全巻所有し、かつ全巻読破し(何度も!)、毎年ゴールデンウィークに劇場公開される映画は必ず見えます(大人もはまりますぜ～)。

とにかく、まだ新居には入れなかったもので、その後2カ月近くペットショップの方に飼育していただけ、2年前の9月からランちゃんとの生活が始まりました。妻と娘はしょっちゅう会いに行っていたようです。

ランちゃん用に、1.5平方m程度の広さのケージ(サークル)を購入し、その中におしっこシートが敷かれているトイレ用の台を置き、家人が留守のときと、夜になって眠るとき、ランちゃんはこのケージ(サークル)の中に入れておとなしくしています。

ペットショップの方に2カ月近く飼育していただいていたので、ある程度しつけはできていて、おしっこ、ウンチは、トイレ用の台の上で大概できるようになっていました。ただし、それでも、最初の3カ月程は、いろいろな所にオシッコをして、家人に叱られておりました。トイレ用の台の上でおしっこ、ウンチができたときは、おもいきり褒めてご褒美をやり、それ以外の所でお漏らししたときは、これまたおもいきり叱る、という毎日でした。妻は「もう一人子育てしたみたい。」と楽しそうに笑っていました。

ランちゃんが我が家にやって来た効果は早速現れました。なにしろ愛らしいので、ちょっとした仕草

を見ても笑ってしまうのです。家族3人の中で会話が途切れたときでも、ランちゃんのほんのちょっとした動作、仕草が話題になり、笑いが起こります。

浩宮さんと結婚された雅子さんが、なにかのインタビューの中で、お二人の家の愛犬のことに触れられて、「夫婦喧嘩は犬も喰わないと申しますが、我が家の犬はよく食べてくれるようです。」とおっしゃって、ユーモアのあるところを見せていらしたように覚えています。我が家のランちゃんも、負けず劣らずの活躍を見せてくれています。

ようやく、目標とした「美味しいと思うものを食べて、よく笑って、よく寝て暮らす」が可能になったようです。

家庭内で唯一の猫派であった夫(父)も、今では携帯電話の待ち受け画面にランちゃんの写真を使い、職場では、机の上に置かれた写真立に入ったランちゃんに見守られながら仕事をしています。

なにしろ、夫(父)が家に帰ったときに喜んで迎えに来てくれるのも、夫(父)が仕事に出るときにまわりついてきて見送ってくれるのも、今では、ランちゃんだけですから。まあ、これは喜んでいいのか、悲しむべきことなのか、若干疑問ですが……。

某消費者金融のテレビコマーシャルのようにはまるのもまんざら嘘じゃないと身をもって実感しています。

ともかく、ランちゃんに癒され、笑いのある毎日をおくれています。おかげで家族3人元気です。

そこの貴方! 洗面所でふと見上げた鏡に写っている眉間に刻み込まれた深く、堅いタテ皺に思わずギョツとしている貴方ですよ! 貴方!

ランちゃんのような可愛いペットに癒されてみたいかがですか?